

(1) 中長期計画および2025年度事業計画の進捗・達成状況

<「中内学園中長期計画（第五次）2025～2029年度」の進捗・達成状況>

1. 教学

・個性主義の実践に向けた教育改革

⇒卒業生の「授業・カリキュラム全体に対する満足度」78.3%（前年度68.5%）

⇒初年次教育専門部会のもとに「基礎能力分科会」、「日本語教育分科会」、「自己発見とキャリア開発分科会」を設置し、教育改革に向けた議論を実施

・夢の種プロジェクトの進化・グローバル化

⇒留学生教育の深化に向けて留学生教育専門部会を立ち上げ、クラス編成や時間割編成の見直し案策定

⇒留学生就職促進プログラム「アジアビジネス人材育成プログラム」履修者の修了率87.5%

⇒ゼミ教員との教職協働での就職サポート（ゼミ訪問、面接練習、就職内定状況調査）

・募集力の強化（日本人・留学生）に向けた適切な募集チャネルの開拓

⇒2026年度入学者数999名（前年度844名）。内訳：日本人592名、留学生407名

・クラブ・サークル等の課外活動の活性化

⇒学生募集における実績、全国的な競技人口、競技レベル、練習環境、将来的な可能性、そして指導・スカウティング体制の6つの基準を総合的に評価し、体育会系クラブ5団体を重点クラブとして選出。2026年度より試験的に運用が開始できるよう、設備面や支援体制、指導者配置等の環境を整備していく

・退学除籍者数の改善

⇒退学・除籍率5.0%、退学・除籍者数175名（前年度4.0%、144名）

・学生満足度向上に向けた内部質保証システムの更なる推進

⇒学生の学修成果の可視化に向けて、本学のディプロマ・ポリシーと現在導入しているアセスメントテスト（PROG）の対応表の改訂を実施

・大学院の活性化

⇒修士課程の入学者数21名（前年度20名）、博士後期課程の入学者数2名（前年度0名）

・ルール・マナー教育

⇒入学直後の新入生オリエンテーションにて学生生活ガイダンスを実施し、キャンパスルールおよびマナーについて、新入生全員に周知。2025年度入学生の禁煙誓約書受け取り率100%

## 2. 人事

- ・夢の種プロジェクトの進化に向けた多様な人材の育成・確保

⇒<教員>採用における採用プロセスを見直し、計6期での採用活動により12名の教員を採用・入職  
<職員>新卒採用については採用者なし。中途採用にて2名採用・入職

- ・教職員一丸となった大学運営

⇒全体SD研修を2回開催し、専任教職員の参加率100%

## 3. 施設設備

- ・夢の種プロジェクトの進化に対応したメリハリのある各種機器や設備のメンテナンス

⇒学生が個人所有PC端末を持ち込み授業で活用(BYOD)できる環境の整備に向けて、検証完了

⇒無線LAN(Wi-Fi)関連機器のリプレイスを実施し、通信環境安定化

- ・DX推進体制の整備

⇒専任教職員の情報セキュリティ研修受講率100%

⇒新入生向け情報セキュリティ、リテラシー教育資料を作成

## 4. 財務

- ・教学・人事・施設設備の大目標達成に向けた経費コントロール

⇒人件費比率(人件費/経常収入)47.0%(前年度47.2%)

教育研究経費比率(教育研究経費/経常収入)51.3%(前年度46.8%)

管理経費比率(管理経費/経常収入)12.0%(前年度11.8%)

経常収支差額比率(経常収支差額/経常収入)△10.3%(前年度△5.8%)

2025年度単年度のキャッシュフローは△299,260,693円(前年度142,594,718円)

経常収支差額は△475,550,190円(前年度△268,131,489円)

- ・投資項目のインパクトの可視化

⇒投資の選択と集中に向け、業務の「ムダ・ムリ・ムラ」の抑制に向けたコスト意識の醸成

## 5. 広報

- ・大学認知度向上に向けた取り組みの実施

⇒新聞・WEB・SNS等の他社コンテンツにて116件記事掲載

⇒中内功記念館改装、キャッシュレジスター博物館移設等を行い、本学のステークホルダーに案内。建学の理念や流通革命に触れることができる展示空間を整備

- ・40周年記念事業

⇒2026年度に計画立案、2027年度に各種企画実行準備、40周年を迎える2028年度に周年事業実施予定

## <2025 年度事業計画 達成状況>

※2025 年度事業は、「中内学園中長期計画（2025～2029 年度）」の重点項目に基づく、単年度の事業計画であり、個性主義の教育改革によるオンリーワン・ナンバーワンの教育力構築と大学の国際化を目指した教学の強化および多様性の推進を実現するためのものです。

### 【大学部門】

#### ・個性主義の実践に向けた教育改革

- ⇒卒業生の「授業・カリキュラム全体に対する満足度」78.3%（前年度 68.5%）
- ⇒初年次教育専門部会のもとに「基礎能力分科会」、「日本語教育分科会」、「自己発見とキャリア開発分科会」を設置し、教育改革に向けた議論を実施
- ⇒オンデマンドと対面を併用しながら、学習習慣の継続や学びなおし、基礎学力アップにつなげる内容の入学前課題を課す等、入学前教育プログラムの再構築を行った
- ⇒2026 年度からの研究演習実質必修化に向け、研究演習 HP の作成、ゼミ選択時の掲示資料の見直し、希望調査などを行い、ゼミのミスマッチを減らす施策を実施

#### ・夢の種プロジェクトの進化・グローバル化

- ⇒「考える学習型授業」の進化と成績評価の見直しを目的とし、「教育の質保証」をテーマにした FD 研修を計 4 回実施
- ⇒留学生教育の深化に向けて留学生教育専門部会を立ち上げ、クラス編成や時間割編成の見直し案策定
- ⇒留学生就職促進プログラム「アジアビジネス人材育成プログラム」履修者の修了率 87.5%
- ⇒ゼミ教員との教職協働での就職サポート（ゼミ訪問、面接練習、就職内定状況調査）
- ⇒地元就職先企業の求人開拓のため、兵庫県および大阪府本社企業 570 社と情報交換・関係構築
- ⇒2025 年度就職率 98.5%（前年度 98.5%）

#### ・募集力の強化（日本人・留学生）に向けた適切な募集チャネルの開拓

- ⇒2026 年度入学者数 999 名（前年度 844 名）。内訳：日本人 592 名、留学生 407 名
- ＜日本人＞授業体験型入試の告知を強化し、オープンキャンパス来場者（前年度比 106.7%）や実志願者数（前年度比 109.8%）が増加
- ＜留学生＞国際情勢の変化により、海外現地からの出願数が大幅に減少したが、国内日本語学校からの出願者数は堅調な結果となり、留学生入試全体では、前年度を上回った

#### ・クラブ・サークル等の課外活動の活性化

- ⇒学生募集における実績、全国的な競技人口、競技レベル、練習環境、将来的な可能性、そして指導・スカウティング体制の 6 つの基準を総合的に評価し、体育会系クラブ 5 団体を重点クラブとして選出。
- 2026 年度より試験的に運用が開始できるよう、設備面や支援体制、指導者配置等の環境を整備していく。
- ⇒UNIVAS SSC 認証取得。HP 等にて広報し、課外活動団体加入者が安全・安心して活動できる体制を整備

・退学除籍者数の改善

⇒退学・除籍率 5.0%、退学・除籍者数 175 名（前年度 4.0%、144 名）

1 年生の退学・除籍者数 25 名（前年度 25 名）

直近 3 年間のデータ分析を行い、退学・除籍者の受験した入試制度や出身高校、単位修得状況の傾向を把握するとともに、退学検討時期についても調査を行った

・学生満足度向上に向けた内部質保証システムの更なる推進

⇒学生の学修成果の可視化に向けて、本学のディプロマ・ポリシーと現在導入しているアセスメントテスト（PROG）の対応表の改訂を実施

⇒2026年度より教育審議会の諮問機関として教学マネジメント専門部会を新たに設置

・大学院の活性化

⇒修士課程の入学人数 21 名（前年度 20 名）、博士後期課程の入学人数 2 名（前年度 0 名）

大学院修士課程から博士後期課程への（内部）進学促進を強化し、3 年ぶりに博士後期課程で入学あり

・ルール・マナー教育

⇒入学直後の新入生オリエンテーションにて学生生活ガイダンスを実施し、キャンパスルールおよびマナーについて、新入生全員に周知。2025年度入学生の禁煙誓約書 受け取り率100%

⇒学生寮の入寮者には、学生寮のルール・マナーを周知徹底し、違反した学生には個別面談を実施するとともにペナルティを含めた指導を実施

【法人部門】

・夢の種プロジェクトの進化に向けた多様な人材の育成・確保

⇒＜教員＞採用における採用プロセスを見直し、計 6 期での採用活動により 12 名の教員を採用・入職

＜職員＞新卒採用については採用者なし。中途採用にて 2 名採用・入職

⇒基幹教員導入に向けた制度整備を検討継続

・教職員一丸となった大学運営

⇒事務職員向けの長期的かつ計画的な研修内容を策定し、私大連（外部）研修や人事（学内）研修など多彩な研修プログラムを用意し周知

⇒全体 SD 研修を 2 回開催し、専任教職員の参加率 100%

・夢の種プロジェクトの進化に対応したメリハリのある各種機器や設備のメンテナンス

⇒学生が個人所有 PC 端末を持ち込み授業で活用（BYOD）できる環境の整備に向けて、検証完了

⇒無線 LAN（Wi-Fi）関連機器のリプレースを実施し、通信環境安定化

⇒セキュリティ体制の見直し（セキュリティ付き USB メモリの導入検討、情報資産管理台帳作成完了）

・DX 推進体制の整備

⇒専任教職員の情報セキュリティ研修受講率 100%

⇒2026 年度末の各事務システムのリプレースに向けて、導入システムおよびスケジュールを確定

⇒新入生向け情報セキュリティ、リテラシー教育資料を作成

・ 教学・人事・施設設備の大目標達成に向けた経費コントロール

⇒人件費比率（人件費／経常収入）47.0%（前年度47.2%）

教育研究経費比率（教育研究経費／経常収入）51.3%（前年度46.8%）

管理経費比率（管理経費／経常収入）12.0%（前年度11.8%）

経常収支差額比率（経常収支差額／経常収入）△10.3%（前年度△5.8%）

2025年度単年度のキャッシュフローは△299,260,693円（前年度142,594,718円）

経常収支差額は△475,550,190円（前年度△268,131,489円）

・ 投資項目のインパクトの可視化

⇒投資の選択と集中に向け、業務の「ムダ・ムリ・ムラ」の抑制に向けたコスト意識の醸成

・ 大学認知度向上に向けた取り組みの実施

⇒新聞・WEB・SNS等の他社コンテンツにて116件記事掲載

⇒四国エリアにてオープンキャンパス来場促進に向けた商業実施

⇒中内功記念館改装、キャッシュレジスター博物館移設等を行い、本学のステークホルダーに案内。建学の理念や流通革命に触れることができる展示空間を整備

・ 40周年記念事業

⇒2026年度に計画立案、2027年度に各種企画実行準備、40周年を迎える2028年度に周年事業実施予定